

「深い学び」に導く職業科の実践：
生徒自身が自己省察を重ね、自己の適性と向き合う
姿を目指して

メタデータ	言語: ja 出版者: ジアース教育新社 公開日: 2021-01-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 雅義 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027876

【投稿論文：実践研究】

「深い学び」に導く職業科の実践

～生徒自身が自己省察を重ね、自己の適性と向き合う姿を目指して～

静岡大学教育学部附属特別支援学校 教諭 鈴木 雅義

1 はじめに

今般の学習指導要領の改訂により、「育成を目指す資質・能力」の3つの柱が示された。具体的には、①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養、である。「深い学び」の重要性については、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（2016）¹⁾において、授業改善の視点と相まって、「『アクティブ・ラーニング』の視点については、深まりを欠くと表面的な活動に陥ってしまうといった失敗事例も報告されており、『深い学び』の視点は極めて重要である」とある。また、「学びの『深まり』の鍵となるものとして、各教科の特質に応じた『見方・考え方』」が示されている。深い学びにつながる見方・考え方を働かせている姿は、生徒が資質・能力を身に付ける過程であり、子供たち自身で課題を解決していく姿であると考えられる。特別支援学校においても、社会に開かれた教育課程の実現に向け、他校種同様に教科の深い学びにつなげる授業づくりが求められている。こうした背景から、特別支援学校における教科等の深い学びへと誘う見方・考え方についての整理が必要である。

さて、山元ら（2018）²⁾が静岡県の調査で示すように、知的障害特別支援学校高等部の教育課程の多くは、作業学習を中心に、将来に向けて社会的・職業的な自立を促す授業が組まれている。このことを踏まえ、本校高等部で

は、いわゆる知的障害教育の各教科である職業科（以下、職業科）の時間を設け、作業学習と両輪で働き続ける人づくりを合言葉に、授業づくりを行っている。本校高等部の生徒は、進路決定に向けて自分の考えがうまくまとまらず、保護者、教師に委ねる傾向が見られる。また、進路選択・進路決定は「2年生の終わりくらいから考える」「3年生になってからでいい」と先送りで考えていることがある。山本・三木（2015）³⁾も「知的障害のある青年の中に、希望職業や希望進路に関する具体的な多面的なイメージを持ちにくい者がいること」を指摘しており、生徒が、進路決定に向けての自己選択、自己決定についての学びを深め、認識を高めることは、本校のみならず、多くの学校の課題といえよう。

以上の現状と課題から、生徒が自己の進路に向き合える職業科の授業づくりが必須であると考え、取り組むこととした。また、職業科において深い学びにつなげる授業づくりを進めることで、生徒が自己の将来と向き合いながら進路選択できるだろうと考えた。

本稿では、令和元年9月から10月に実施した、高等部2年生の職業科の実践から、生徒が深い学びを得ていく過程について報告する。

2 深い学びを得た姿

「深い学び」について、特別支援学校学習指導要領解説知的障害教科等編（下）（高等部）「職業」（2019）⁴⁾には、以下のように記されている。

「生徒が、職業など進路に関する事柄の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に

表1 本研究で捉える各学年段階での深い学びを得た姿

	高1	高2	高3
職種について	仕事を知る	仕事を選ぶ	仕事を決める
自己について	自分を知る	自分を理解する	自分の適性を知る
評価の観点	職業に関する事柄について知ることができる。自己の課題を発見することができる。	職業に関する事柄について理解を深め、選ぶことができる。自己の課題を発見し、解決策を考えることができる。	よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活できるか考えることができる。自己の能力と仕事に対する適性を総合的に考えることができる。
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事を知るために調べたりまとめたりできている。 ・ 自分を知るためにできない、好き嫌い等の項目に記述できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場実習で経験した職種から比較できている。 ・ 自分を理解するために、得意不得意から、こうすれば「分かる、できる」をまとめたり話したりできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事を決めるための材料として、今までの現場実習での経験や合う仕事から検討できている。 ・ 自分が働き続けられる仕事かどうか判断している。

向けた解決策の検討、計画、実践、評価・改善といった一連の学習活動の中で、職業に係る見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する学びである。このような学びを通して、職業に関する事実的知識が、概念的知識として質的に高まったり、技能の習熟・定着が図られたりする。また、「主体的な学び」や「対話的な学び」を充実させることによって、職業科が目指す思考力、判断力、表現力等も豊かなものとなり、生活や職業についての課題を解決する力や、よりよい将来の職業生活の実現に向けた態度も育まれる」

なお、ここで述べられている「質的な高まり」とは、国立教育政策研究所教育課程研究センター（2019）⁵⁾は、『教科において十分満足できる状況』にあることと記されている。つまり、学習者が考えの変容を自覚し、他の場面においても活用することができる姿と捉えることができる。

このことを踏まえ、職業科において、「深い学び」を踏まえ、到達すべき姿を整理し、具体

像を明確にしながら授業づくりを行うことで、生徒が見方・考え方を働かせながら深い学びを得て学ぶことができるだろうと考えた。また、単元計画、授業計画に見方・考え方を働かせるための手立てがあり、かつ、生徒自身が深い学びを得ている姿（表1）に近づいているかを検証した。

3 深い学びにつなげる授業実践

(1) 教科の深い学び

教科の深い学びにつながる見方・考え方の定義について、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（2016）⁶⁾が、「見方」とは、どのように対象を捉えるか（教科等固有の対象を捉える視点）、「考え方」とは、どのように対象と関わり、対象に迫るか（教科等固有のアプローチの仕方、プロセス）と示している。このことを関連付け、生徒の学びの姿を確認しながら授業を進めた。表1に、「2 深い学びを得た姿」で示した深い学びを得ている姿に加え、職業科の深い学びの「職業科の目標」に記載されている内容をもとに評価の観点や評価規準を

表2 前単元とのつながり

学習時期	高等部1年2学期	高等部2年1学期	高等部2年2学期	高等部3年1学期
単元名	「発見！仕事と私」	「発見！私の仕事」	「発見！働く私」	「決定！私の仕事」
学習内容	自己理解、職種理解	自己理解、職種選択	適性理解	自己支援、働き続ける力
学習活動	自己理解シートの作成をする どんな仕事があるのかを調べながら職種の整理をする	他者評価からの自己理解を行う 職種の特性から合う職業を選ぶ	得意不得意、向き不向きなどの視点から自己の適性を確認する	職業準備性ピラミッドを用いて、働くために大切なことの確認をする

設定し、整理した。

(2) 職業科の見方・考え方

職業科における深い学びを得た見方・考え方とは、職業に係る事象を、卒業後の進路・働く生活の実現等の視点で捉え、よりよい職業生活や社会生活を営むための工夫を行うことである。つまり、新しい学びに際して、既知の知識・技能を結び付けて深く理解したり、技能を高めたりするなど、職業分野における学びを深め、実際の職業生活に活かそうとする力である。既知の知識を結び付けるために、今までの学習してきた内容を職業科のファイルから確認しながら活用するようにし、新しい内容と連動できるように設定して取り組んだ。

(3) 前単元とのつながり

本校高等部の職業科では、1年、2年、3年と前後のつながりが重要となる3年間を見通して単元を計画している(表2)。現場実習での取組から見ると、1年生では経験すること、2年生では経験を積み重ね深めること、3年生では、進路決定という大まかな流れを設定している。高等部1年生段階で、「発見！仕事と私」で、自己理解と働くために必要な力を学び自己理解シートやミニPATHシートを用いながら学習に取り組んできた。また、2年生の6月には、「発見！私の仕事」で第3回目の現場実習に向けての学習を行い、どんな仕事があるのか、どんな

内容なのかについて学習してきた。その後、第3回目の現場実習を通して、実際に働いてみて感じたこと、自分に合っていたかどうかの確認を行った。その中で、現場実習日誌から、疲れていたため、自分の荷物の整理や家庭での手伝いができなかったりする等、生活での課題も発見することができた。このように日々の生活の課題を、毎日確実にを行うことができているかについて連絡帳を活用して取り組んだ。

(4) 深い学びにつなげるための単元構想

2年の2学期の学習『発見！働く私』では、企業就労を目指す生徒3名と福祉就労を目指す生徒1名で構成しグループで学習を行った。

一次(2時間扱い)では、校内の身近な先輩(3年生)に対しどのように進路決定をしたのか、2年生の段階で課題をどのように克服してきたかをインタビューし、今後、自分がすべきことの見通しを持てるようにした。実際に進路選択してきた3年生から話を聞くことで、今後の学校生活で取り組むべきことや、課題との向き合い方について知り、進路決定への道筋を理解できると考えた。また、身近な先輩の話を聞くことは、より近い存在のため、主体的に学習に臨む上でも有効な場面と捉えた。

二次(2時間扱い)では、実際に働く先輩の生徒が自分の姿を映像で見える機会を設定した。「働く生活」について、イメージ化することが

難しい段階であるので、実際に働く先輩の姿を参考にして、自分の進路選択へと結び付けてほしいと考えた。また、実際に現場で働いている先輩の姿に、着眼点があると働く生活のイメージが整理されるだろうと考えた。

三次は、現場実習（10日間）を含めての学習とした。現場実習前に8時間、現場実習後に6時間を設けた。実際に実習先で働き、進路選択のためのいくつかの働く視点から考えられるようにした。この仕事は将来にわたり働けるものなのか、卒業後の進路として自分に適しているのかを考えられるようにした。現場実習の振り返りと、今後の生活に向けての目標設定を行うことも学習の中に設定した。そのために、振り返りを十分に行うことができるよう、既習内容、職場・仕事内容、生活の視点も入れ、経験し、振り返ることを考えた。また、自己の得意不得意や合う合わないを捉え、卒業後の生活について考えられるようにするとともに、今後の生活についても考えて行動してほしいと考えた。

（5）深い学びを得られる視点と考える手順

中央教育審議会による『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』（答申）

（2016）¹⁾では、「子供たちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしたりしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる」と述べられる。このことを踏まえながら授業づくりを行った。

「発見！私の仕事」の単元を始めるにあたり、生徒たちが分かりやすい働く視点をおさえて取り組んだ。現場実習や作業学習を通して、職場を選ぶときに「どのように見たらよいかわからない」「どこを見ればいいのか知りたい」と生徒たちからの疑問や不安が出された。ここで、生徒たちからどんな働く視点があれば分かるのかについて、意見を求めた。実際に働いた現場を写真や動画を提示したことで、「環境」「動きが」「楽しさ」「なぜ選んだか」「人(担当者)」「給料」「体力」「生活面」等の働く視点が出された。さらに、重複する内容や分かりやすさから絞り込みを行い、4つの働く視点に整理した。4つの働く視点とは、①「業種を選んだ理由」、②「職場の環境」、③「生活面・給料」、④「人について」

表3 思考のプロセス（例）

4つの働く視点から、生徒個人、友達や教師の価値観や基準を通して比較検討の過程が意思決定のプロセスであり、見方を働かせて考え、深い学びにつなげることができると考えた。			
視点（見方）	生徒個人 生徒個人の考え	友達や教師 第三者の考え	比較検討 生徒個人、友達や教師の 考えから比較検討
視点1 業種を選んだ理由	私はコツコツ行う仕事に向いている	私は体を動かす仕事に合っている	時間内同じ作業をやり続けるのが向いているかな
視点2 職場の環境	静かな環境がいい	少々うるさくても好きな仕事ならできる	音は、耳栓や気にしないようにすればいいかな
視点3 生活面・給料	給料多くもらえたら休まなくていいかな	体を休めると長く働ける	休みをしっかりとって働き続けたい
視点4 人について	怖いのは嫌だな 優しく話す人が良い	教えてくれる人がいいな	色々な人と上手に関われるようにしたい

である。この4つは、働き続けるために必要な視点であり、これらに基づいて振り返り、分析的に思考を促すことにより、生徒が今後の進路選択で主体的に考えられるための見方を得られると考えた。

表3に示す、思考のプロセスは、4つの働く視点から生徒自身の価値観や基準、友達や教師の価値観や基準、比較検討をして意思決定へと導くプロセスを重視したものである。比較検討は、教師が複数の視点について問い掛け、考えた理由を発言するようにした。その際、発言内容をホワイトボードに書き留め、生徒の考えた理由を復唱し、確認した。

(6) 深い学びにつなげる4つの働く視点について

ア 視点1「業種を選んだ理由」

「業種を選んだ理由」は、先輩や卒業生がどのように業種を選んできたのか、そして、自身がどのように選んでいくのかという視点である。この視点は、獲得してきた知識や体験してきたことから見ることでできるものであるため、学んできた段階で見方が異なる。

なお、業種を選んだ理由は、後続する全ての視点を包括している。本来、視点2～3をとおすことで業種を選んだ理由が導き出されるが、本単元では、視点を繰り返し往来することで、業種を選んだ理由に変化が生じるのではな

いかと考え、同列に配置した。

イ 視点2「職場の環境」

ここでの環境は、音、におい、採光、寒暖、空間等の物理的な環境を指し、生徒が不安に感じている視点である。見通しが持ちにくく、生徒の適性に関わる視点である。

ウ 視点3「生活面・給料」

働く生活を支える視点として設定した。どのように仕事以外の時間を使っていたのか、身の回りのことや家事、余暇の過ごし方は、生徒の関心が高い。また、働き続けるための生活の基盤である給料についても関心が高い。使い方も大切にしたい視点である。

進路選択は、職場を離れた際の時間の使い方について検討する視点も切り離すことができない。したがって、進路選択には直接関連しないものの、重要な要素と捉えて設定した。

エ 視点4「人について」

社会には、優しい人もいれば厳しく指導をしてくれる人もいる。また、人によって話し方に特徴があり、怒られていると感じられることもある。職場選択において相談できる上司や先輩がいることは、職場選択における安心材料ともなる。

上記の視点1～4を、「なぜ働くのか」を考える材料とし、「働くやりがい」についての話を聞いたり、作業学習や現場実習で実感したこ

図1 働く私③

月	日	名前
○今までの実習先を振り返る		
いつ	実習先	業種を選んだ理由
1年		職場の環境
1学期		生活面
		人について
		合っていたか
1年		
2学期		
2年		
1学期		

縦軸は学びを積み重ねてきたこと(=学びの文脈)

働く視点(見方)

四つの視点から、思考を促し、実習先があつてたのかを判断基準とする

図1 キャリアシート

図2 働く私③ 「キャリアシート」

月	日	名前
○今までの実習先を振り返る		
いつ	実習先/仕事内容	業種を選んだ理由
		職場の環境
		生活面
		人について
		合っていたか
1年	図書館業務本の整理	やることが決まっていたから
1学期		静かで落ち着いていた
		いつも通り通じた
		やさしい教えてくれた
		○やってみたい70点
1年	製造業部品の補充組み立て	製造業にチャレンジしてみたかったから
2学期		大きな音がした機械のおかげ
		きつかった
		覆れたので早め
		に寝るようにした
		圧差を受け
		ることが多
		かった
		あいさつで
		きなかった
		○
2年	小売業野菜の計量野菜の洗浄	農業に興味があつたから
1学期		暑かった
		だしかった
		いつも通り通じた
		年配の方が
		多く優しく
		探してくれ
		た
		○
		やりたい
		80点

図2 キャリアシート(記入)

とを振り返ったりすることで「働かされている」から、「働きたい」という気持ちの転換を図ることができると考えた。

(7) 授業実践

単元「発見！働く私」の一次、1、2時間目の『先輩の話进行こう』では、あらかじめ高等部3年生の先輩に対して、4つの働く視点で話をしてもらうようにした。生徒たちは、「選んだ理由」「環境」「生活面・給料」「人について」の4つの働く視点を意識しながら書き分けて記入できていた。4つの働く視点から、先輩の話聞き、必要な情報を積極的に質問することもできた。4人の先輩から話を聞いたが、ワークシートへの記述から進路の選び方が4人ともそれぞれ違っていたことに気付くことを確認できた。話を聞く中で生徒たちは「先輩も悩みながら決めたんだ」「実習先を決めるポイントがあったんだ」という発言があり、次の実習先や将来について考えるヒントになったと捉えられた。4つの働く視点を手がかりに、「環境面では、

静かな職場を見たい、自分は静かな環境が向いているから合っている」と分析的に考え、深い学びが得られている姿を見ることができた。

3、4時間目の『働いている先輩の話进行こう』では、教師が4つの働く視点を取り入れた質問形式で卒業生の動画を撮影し、生徒たちの働くことについてのイメージは、「役に立つ」「社会の一員」と捉えている面もあれば、「大変」「疲れる」と逆の捉えも持ち合わせていた。働く生活とは、「働いて洗濯は大変」「働いた後にご飯作るのめんどくさい」等のイメージが多かった。働いている先輩から、「好きな仕事だから生活も頑張れる」「適当に力を抜いている」「頑張るすぎると疲れるから、無理をしない」という働く生活が具体的に示された。この言葉から「それでいいんだ」「大丈夫そう」という発言があった。

三次の実習後の学習では、4つの働く視点を踏まえて実際に働いたことをキャリアシート(図1)にまとめ、振り返りを行った。キャリア

発見！働く私 V

進路マップ

月 日 名前

得意

弓道、レゴブロック

不得意

細かい作業
計算すること

なりたい自分

皆から頼りにされる人

作業学習でがんばっていること/やりがい

グループのリーダーを
がんばっている
作業班の役に立っ
ていること

好きな仕事

組み立て
農業

嫌いな仕事

接客
細かい仕事

お小遣いの使い道

お菓子とジュース

給料の使い道

好きなものを買いたい

働く4つの視点から考える

視点	業種(仕事)	業種(仕事)を選んだ理由	職場の環境	生活面・給料	人について
ヒント	自分に合っていると考える業種(仕事)	なぜ選んだのか	どんな環境が良いのか	どんな生活をしたいのか	職場の人は選べない。自分がどう接すれば良いのか
今の自分で考える	組み立て 農業	作ることが好きだからいつも手伝っているから	静かな環境 そんなに人が多くないところ	働いて、好きなことがやりたい	初めはうまく聞かれないかもしれないけど、どんな人とも関わられるようにしたい

やりがいを感ぜられる場面

皆から頼りにされること

働くって何だろう?

お金をもらって生活すること

図3 進路マップ

アシートには、今までの実習を振り返ることができるように、働く視点と実習時期を書き込むことができるようにした。縦軸は、学びの履歴を示し、横軸には、働く視点を配置した。図2は、生徒が実際に記入したキャリアシートである。働く視点がなかったときに比べ、「職場の環境は静かで物が整理されていました」「物をたくさん作っていて車の音や機械の音がうるさかった」など、働く視点の言葉を通して教師や友達に気づいたことを話し、記入できていた。

働く視点をもって話したり記入したりできるようになってきたことから、次の進路先の決定や、将来のことについて考えられるように、進路マップ(図3)を作成した。進路マップは、「4つの視点」×「『なりたい自分』、『得意不得意』、『好きな仕事・嫌いな仕事』『作業学習で頑張っていること・やりがい』『お小遣いの使い道・給料の使い道』とといった今までの学習で学んできたこと」×「考える材料(ヒント)」と、3つの要素を掛け合わせ、意思決定へと導くプロセスを意図した。働く視点と考える材料から、生徒たちは、今までの学習してきたことを思い出したり、キャリアシートを見たりして確認しながら進めた。進路マップ作成時の生徒の様子は、「得意なことが細かい作業で、不得意なことは漢字だな」や「計算が得意、人とのやり取りが不得意だ」と過去に学習したことについて声に出しながら記入する様子があった。「お給

料は家族のために使いたい」「お客さんに喜んでもらえたり、人のためになったりすることをやりたい」と得意不得意以外の考える材料についても進路マップに記入していった。4つの働く視点を掛け合わせると、「家族を助けたい」「悩みを聞いてくれる人がいてくれると助かる」と環境面と人についての視点から考えることができている場面があった。見方・考え方を働かせることで、自分のこととして進路について検討できていたのではないかと考える。

4 授業後の調査より

(1) アンケート調査より

生徒自身がどのように学んだかを総合的に分析するため、生徒に対して授業後のアンケート調査を実施した。なお、生徒の変容を見取るために、授業後の令和元年10月と、8か月後の令和2年6月に、同じ内容にてアンケートを実施した。また、進路先決定に向けてのアンケート調査については、生徒と保護者に対して実施した。

アンケートの内容は、各項目について「1. まったくそう思わない」「2. あまり思わない」「3. そう思う」「4. とてもそう思う」の4件法で提示した。アンケートの実施にあたり、調査内容に関する説明や個人情報保護といった研究倫理等に関する事項、調査結果を発表にて公表する可能性がある旨等を記載した文章を添付

表4 生徒へのアンケート(令和元年10月及び令和2年6月実施 結果)

生徒	ア		イ		ウ		エ		オ	
	職業で学んだことを家庭で話した		実習先について考えている		将来のことについて		得意不得意を知っている		働く生活について話す	
	10月	6月	10月	6月	10月	6月	10月	6月	10月	6月
A	2	3	3	4	2	3	3	4	2	3
B	3	3	3	4	3	4	4	4	3	4
C	4	2	4	2	4	4	4	4	3	4
D	3	3	3	3	3	3	4	4	3	3

表5 進路先決定に向けてのアンケート結果（生徒・保護者）

	ア		イ		ウ		エ		オ	
	生徒	保護者	生徒	保護者	生徒	保護者	生徒	保護者	生徒	保護者
生徒	次の実習先を考えるための視点が あった		実習先について自 分の考えをもって いた		家庭で進路につ いて話をしている		家族から進路につ いてのアドバイス してもらっている		進路について自分 のこととして考え ている	
A	3	3	3	3	3	2	4	2	3	3
B	4	4	4	3	3	3	4	3	3	3
C	4	3	3	2	3	2	4	3	4	3
D	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3

し、承諾を得た。また、学校名や個人名が特定されることはないということ等を明記した。

10月及び6月のアンケート結果（表4）から、今回の授業では、職業の授業で学んだことを家庭で話したり、実習先や将来のことについて考えたりする機会があった。また、生徒Aは「実習先について考えている」及び「得意不得意を知っている」以外の項目で「あまり思わない」という否定的な回答をしている状況が伺えた。また、生徒Bと生徒Cは「得意不得意を知っている」の項目で「とてもそう思う」と回答し、それ以外の項目では「そう思う」という肯定的な回答をしている状況が伺えた。生徒Cは、最も肯定的な回答が多く、「働く生活について話す」以外は全て「とてもそう思う」と回答していた。このことから生徒A以外については、比較的、肯定的な回答が多く得られ、授業による一定の成果が認められたと捉えた。また、授業実施後も引き続き自分自身の得意不得意に向き合っている状況が伺えるとともに、働く生活について話す機会が保たれたり、増加したりしていることが推察された。

生徒のアンケート結果（表5）では、4ポイントの「とてもそう思う」、3ポイントの「そう思う」で占められている。「次の実習先を考えるための視点があった」「実習先について自分の考えを持っていた」の質問項目では、単元

の学習を通して考えるための4つの働く視点が
あり、自分の考えを持てるようになったのでは
ないかと推察できる。また、「家族からの進路
についてのアドバイスをもらっている」の質問
項目では、全員が「とてもそう思う」と回答し
ていた。

一方、保護者の回答結果からは、「家族から
の進路についてのアドバイスをもらっている」
の質問項目で保護者全員が生徒よりも1段階か
ら2段階下位の評価を行っている。また、「子
供に進路についてのアドバイスをしている」の
質問項目では、生徒が認識しているほど、進路
についてのアドバイスをしているとは感じてい
ない状況が伺える。なお、「次の実習先を考
えるための視点があった」の質問項目では、保
護者と生徒の間で回答が一致しており、認識の相
違は認められなかった。

以上の結果より、進路決定に向けて話をす
ることについて認識の差がみられ、正確な状況
を読み取ることは難しかった。学校で学んだこ
とを家庭で話すということがあまりなかった生
徒たちではあるが、保護者A以外は「子供に
進路についてのアドバイスをしている」との質
問項目に肯定的な回答をしている状況や、全
ての保護者が「進路について自分のこととし
て考えている」との質問項目に肯定的な回答
を示し、生徒の実態を捉えていること、また、
全ての生徒

が「実習先について自分の考えをもっていた」や「家族から進路についてのアドバイスしてもらっている」との質問項目に肯定的な回答をおこなっている状況を勘案すると、今回の取組を通じて、家庭で実習先や進路に関する話をするきっかけをつくることができたかと推察した。

5 まとめ

(1) 実践の検証

職業科の「深い学びにつなげる授業づくり」により、生徒が見方・考え方を働かせながら深い学びを得、自らの進路と向き合いながら進路選択することができるだろう」という仮説に基づいて実践した結果は以下のとおりであった。

ア 学びの気付き

「3 深い学びにつなげる授業実践」より、先輩の業種を選んだ理由を見て、「自分と業種の選び方が違う」と違いに気付くことができた。生徒は、業種を選ぶ段階で、シートに記入することができなかったが、「こうでなければいけない」ということから脱し、先輩や友達の選び方を参考にすることができたかと捉えられた。

イ 自らの進路と向き合う点

4つの働く視点と考える材料を手掛かりにして「〇〇だから、〇〇だ」と理由を述べられるようになった。また、進路マップを使った進路決定のプロセスを経ることで、進路決定を自分のこととして考え、発表することができていた。「3 深い学びにつなげる授業実践」及び上述のア、イより、職業科の深い学びにつなげる授業づくりを進めることで、生徒が自らの進路と向き合いながら、3年生で取り組む「現場実習先」の選択することにつながったのではないかと捉えた。

(2) 成果と課題

本実践では、生徒が職業科において「深い学び」を得ることができるよう進路選択、進路決定への道筋を立てられるように実践を進めてき

た。進路マップは、働く視点と考える材料を焦点化して設定したこともあり、生徒が順を追って考える姿を捉えることができた。また、生徒の一人は、次の実習先を考える際「この視点から考えると自分の得意不得意が〇〇だから、向いていないかと思っていたが、現場実習で実際に働くことができたので同じような業種がいいのではないかと思います」との発言があった。このことから、思考の整理が図られ、道筋を立てて説明できるようになってきたと考える。なお、視点と考える材料があったことで仮説に掲げた「生徒が自らの進路と向き合いながら進路選択すること」については、上記の生徒の発言を含め、進路を自分のこととして捉え、選ぶことができていたのではないかと考える。

一方で、4つの視点を通したことでどこでも働きたい場所になり、「いくつかの視点から考えましたが、分からなくなりました。」と発言する生徒もいた。この発言から、選択の幅が広がることは良いことであるが、本人の希望を絞り込んでいけるように、考える材料を提示する必要があった。反面、生徒自らが進路選択を自分事として視点を手掛かりに考えたことで、今までになかった選択の幅が広がったとも考えられる。本人の希望の絞り込みだけでなく、視野を広げる工夫も必要である。

深い学びに向かうことができる鍵は、「見方・考え方」を働かせる姿と考え、今回の実践では、職業科において「深い学び」を得ることができるように授業づくりを行った。文部科学省(2016)の「教育課程部会 特別支援教育部会における審議の取りまとめについて(報告)」資料6には、知的障害のある児童生徒が質の高い深い学びを実現するために必要な指導方法の充実を挙げており、子供たちの学びの過程を重視したアプローチ(習得、活用、探究の学習過程が相互に関連し学習を深められる学習活動の展開など)を例示している。本報告では「ある

経験や学習が他の学習に対して促進的に作用することが必要である」と述べている。即ち、「深い学び」は、他の教科、学習場面とのつながりを踏まえて見方・考え方を発揮するということである。

今回の実践を踏まえ、他の教科等や生活場面において身に付けた力を活用することができているか、また、学習状況の評価は十分であったか、その評価は妥当性があるものなのか、検証をする必要がある。

今後は、日常生活の指導や生活単元学習のほか、国語、数学等において、職業科の深い学びを得ながら働かしている場面を捉えるとともに評価の工夫をし、つながりを踏まえて学習が進められるようにしていきたいと考える。

引用文献

- 1) 中央教育審議会 (2016) 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について (答申)』。
- 2) 山元薫・水野靖弘・野崎弘之 (2018) 『知的障害特別支援学校における教育課程の実施状況に関する調査：教育課程を編成する各教科等の配当時間数の変化』静岡大学教育実践総合センター紀要 27 巻 .1-9.
- 3) 山本由佳莉・三木和弘 (2015) 『知的障害のある青年の進路及び職業に関する意識の研究：フォーカス・グループ・インタビューを通して』鳥取大学地域学部紀要論文 12 号 .93-99.
- 4) 文部科学省 (2019) 『特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編 (下) 高等部』。
- 5) 文部科学省国立教育政策研究所 (2019) 『学習評価の在り方ハンドブック 高等学校編』。
- 6) 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 (2016) 『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』。
- 7) 文部科学省 教育課程部会 (2016) 『特別支援教育部会における審議の取りまとめについて (報告)』資料 6.

参考文献

- 涌井恵 (2009) 本人中心アプローチによる障害のある子どもの支援の輪作りに関する事例報告 小学生への PATH (Planning Alternative Tomorrow with Hope) の実施 国立特別支援教育総合研究所 教育相談年報 第 30 号.
- 新井英靖・茨城大学教育学部附属特別支援学校 (2009) 『障害児の職業教育と作業学習』黎明書房.
- 菊地一文・全日本手をつなぐ育成会 (2013) 『「働く」の教科書：15 人の先輩とやりたい仕事を見つけよう!』中央法規出版.
- キャリア発達支援研究会 (2018) キャリア発達支援研究 5 (2018) 『未来をデザインし可能性を引き出すキャリア発達支援』ジース教育新社.
- キャリア発達支援研究会 キャリア発達支援研究 6 (2019) 『小・中学校等における多様な個のニーズに応じたキャリア教育～深い学びとキャリア発達支援』ジース教育新社.
- 文部科学省 (2018) 『高等学校学習指導要領解説 総則編』。
- 文部科学省 (2019) 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (高等部)』。
- (備考) 本稿の一部は第 34 回はごろも教育奨励賞で発表した。